

レジスターの^{きほん}基本-^{こうぎ}講義

1 導入

この講義の^{こうぎ}核心は、「^{かくしん}文法的に正しい」と「^{ぶんぼうでき}その場面で^{ただ}自然に^{ぼめん}聞こえる」ことは別である、という点にある。^{えいやく}英訳で^{しってん}REGの^お失点が起きるとき、^{がくしゅうしゃ}学習者は^{たんご}単語の意味を^{いみ}誤っているのではなく、「^{だれ}誰に」「^{どこで}どこで」「^{なに}何のために」^い言うかという^{じょうけん}条件を^{えいご}英語の文に^{ぶん}反映できていないことが多い。^{はんえい}

この講義では、Registerを単なる「^{こうぎ}硬い / ^{たん}柔らかい」の^{かた}感覚語としてではなく、^{やわ}相手、^{かんかくご}媒体、^{あいて}目的の3軸で^{あいて}判断する^{ぼいたい}設計問題として^{はんだん}扱う。なぜ^{せつめい}That was close. が^{かいわ}会話で^{しぜん}自然なのか、なぜ^{じむ}confirm the details が^{ぶんたい}事務文体で^{あんてい}安定するのか、なぜ^{せいどせつめい}is intended to support が^{がくじゅつよ}制度説明や^{ぶんみやく}学術寄りの^{えら}文脈で^{じゅんじょ}選ばれるのかを、^お順序を^{せつめい}追って説明する。

2 中心課題

なぜ同じ「^{おな}危なかった」「^{あぶ}確認した後で^{かくにん}連絡する」「^{あと}支援を^{れんらく}目的とする」という意味でも、^{しえん}会話・^{もくてき}事務・^{いみ}学術で^{かいわ}自然な^{じむ}英語は^{がくじゅつ}変わるのか。

3 用語

- レジスター: ^{ぼめん}場面に^{おう}応じた^{ぶんたいすいじゅん}文体水準
- ^{ていねいど}丁寧度: ^{あいて}相手との^{きより}距離や^{はいりよ}配慮の^{つよ}強さ
- ^{politeness level}ジャンル: ^{かいわ}会話、^{じむ}事務、^{せつめいぶん}説明文、^{がくじゅつ}学術、^{ものがたり}物語などの^{ぶんしょうるいけい}文章類型
- ^{ぼいたい}媒体: ^{はつわ}発話か^{ぶんしょ}文書か、^{そくじてき}即時的か^{ひそくじてき}非即時的か、という^{でんたつじょうけん}伝達条件^{medium}

4 方針

Registerを^{はんだん}判断するときは、^{つぎ}次の^{じゅんじょ}順序で^{かんが}考える。

1. ^{あいて}相手を^き決める
 2. ^{ぼいたい}媒体を^き決める
 3. ^{もくてき}目的を^き決める
 4. ^{じょうけん}その3条件に^あ合う^{ごい}語彙と^{ぶん}文の^{なが}長さを選^{えら}ぶ
- ^{じゅうよう}重要なのは、^{えいやく}英訳の^{さいご}最後に^{ごき}語気を^{ちようせい}調整するのではなく、^{さいしよ}最初から^きRegisterを決めて^か書き^{はじ}始めることである。

Registerは^{しあ}仕上げではなく、^{せつけい}設計の^{いりぐち}入口に^お置く。

5 直感的な説明

日本語でも、友人へのメッセージで「やばかった」と言うのと、大学事務へ「確認のうえ再度連絡します」と書くのでは語気が異なる。英語ではこの差が単語と構文に強く現れる。

Display

会話

That was close.

事務

We will contact you again after confirming the details.

制度説明

This program is intended to support students who have difficulty continuing their studies for financial reasons.

この3文は、いずれも情報を伝えているが、読者や聞き手との距離、必要な明確性、感情の出し方が違う。そのため、会話で This was intended to be dangerous のような重い表現を使うと浮き、事務で I'll tell you later のような軽い表現を使うと弱く聞こえる。

6 厳密な説明

6.1 1. Register は3軸で決まる

第一に相手である。友人か、不特定の利用者か、査読者かで、許容される丁寧度は変わる。第二に媒体である。会話は短く反動的であり、事務メールや制度説明は後日再読されることを前提とするため、曖昧さを減らす必要がある。第三に目的である。反応するのか、依頼するのか、制度を説明するのか、結果を報告するのかによって、選ぶべき動詞と構文は変わる。

6.2 2. Register は語彙と構文の両方に現れる

場面	自然な語	不適合な形	理由
会話	That was close.	It was terrible.	即時反応では短く共有経験を前提にした表現が自然
事務	confirm the details	check the content	手続き的な明確性が必要
事務	contact you again	tell you again	再連絡の定型として安定する
制度説明	is intended to support	targets to support	制度の目的を説明する文体では受動と名詞句が馴染む

ほりゅうれんむく 保留連絡	pass on it this time	cancel it	けつてい だんげん やわ ほりゅう つた 決定を断言せず柔らかく保留を伝える
------------------	----------------------	-----------	---

重要なのは、Register を単語の置換だけで理解しないことである。たとえば is intended to support は、intend という動詞 1 個が重要なのではなく、受動形、不定詞、制度説明という文脈が結び付いて自然になっている。

6.3 3. Collocation と Register は分離できない

REG の失点は、しばしば COL と重なる。confirm the details、contact the person in charge、pass on it this time は、どれも文体に合った結合である。したがって、REG の修正では「もっと丁寧な単語に替える」だけでは足りず、その場面で定着している結合へ置換する必要がある。

→ 講義 コロケーション基礎 [lecture](#) [english](#) [collocation](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/コロケーション基礎-講義/>

6.4 4. 文の情報配置も Register の一部である

会話は反応が先に来るため、文が短くなりやすい。事務は用件と次の行動を先に示すため、手続き動詞が前面に出る。学術では目的、条件、限界を整理して並べるため、名詞句や受動が増えやすい。

したがって、Register は「単語が硬いかどうか」だけではなく、「文の先頭に何を置くか」「感情を直接出すかどうか」まで含む。

7 最小の具体例

7.1 例 1: 危なかった

Incorrect

It was terrible.

[REG] 会話の即時反応としては強すぎ、内容も「危なかった」から少し離れる。

Correct

That was close.

[REG] 会話で共有される状況に対する短い反応として自然である。

ここで重要なのは、危険を説明することではなく、「危なかった」という感触を会話の速度で返すことである。

7.2 例 2: 制度の説明

Incorrect

This program targets to support students.

[REG] 制度説明としては動詞が生っぽく、英語としても安定しない。

Correct

This program is intended to support students.

[REG] 制度の目的を説明する文体として自然であり、文書に必要な距離感も保つ。

ここでは「支援する」という意味が重要なのではなく、「その制度がどのような目的を持つか」を説明する枠組みが重要である。

8 別の見方

8.1 距離の調整として見る見方

Register は、相手との距離をどう設定するかの問題として見ることができる。会話では距離が近く、事務では必要な距離を保ち、学術では個人の感情を後退させる。この見方を採ると、なぜ同じ意味でも表現が変わるかが整理しやすい。

8.2 情報の優先順位として見る見方

会話は反応が先、事務は用件と手続きが先、学術は目的と条件が先である。したがって、Register は語彙だけでなく、文の情報配置の問題としても理解できる。

9 見分け方

- 意味は合っているのに「強すぎる」「軽すぎる」と感じる時は REG を疑う
- 事務や学術で動詞が生っぽく感じる時は、名詞句や受動表現を検討する
- 会話なのに説明文のような重い表現が出ているときは、反応の定型句へ戻す
- 制度説明や学術で目的や条件を述べる時は、is intended to、suggests that、is necessary to のような安定した枠組みを先に疑う

10 どこまで成り立つか

Register は明確な境界線を持つわけではない。親しい同僚へのメールのように、会話と事務が混ざる場面もある。また、学術でも分野によって好まれる硬さは違う。ただし、学習段階では、まず典型的な場面ごとの中心表現を固定したほうが、REGの誤りを減らしやすい。

逆にいえば、この講義で示す表現は「唯一の正解」ではなく、「その場面でまず選んでよい安定解」である。より細かい調整は、実例を蓄積しながら後で行えばよい。

11 最終形

Display

Register の基本判断

1. 相手を決める
2. 媒体を決める
3. 目的を決める
4. その3条件に合う定型と語気を選ぶ

12 一言でいうと

Register の学習とは、「何を言うか」を考える前に、「誰に」「どこで」「何のために」言うかを固定することである。

13 関連リンク

→ [\(定石集\) ジャンル別文体ガイド](#) [reference](#) [english](#) [register-guide](#)
<https://study.bem130.com/reference/english/register-guide/>ジャンル別文体ガイド-定石集/

→ [\(問題演習\) 三文体リライト](#) [exercise](#) [english](#) [register](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/>三文体リライト-問題演習/

→ [\(問題演習\) レジスター変換](#) [exercise](#) [english](#) [register](#)
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/>レジスター変換-問題演習/

→ [\(講義\) コロケーション基礎](#) [lecture](#) [english](#) [collocation](#)
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/>コロケーション基礎-講義/